

複数画角に対して使用する場合

- @firABCDをそのまま使う場合は、ユーザー定義コンストレインツや配列変数の名前を変える必要がある

```
gbl num ^out_f2(12,2) ^out_f3(12,2)      !  こちらの場合は、グローバル変数
aut
@ok_f2 == @firABCD(1,0,2, 0, 0, ^out_f2) !  第2画角用
dsp @ok_f2
@efly_f2 == ^out_f2(1,2)
@efly_f2 = 100:wtc 1
@ok_f3 == @firABCD(1,0,3, 0, 0, ^out_f3) !  第3画角用
                                           !  UDC名や配列変数名を変えないと、エラーとなったり適正な値が得られない
dsp @ok_f3
@efly_f3 == ^out_f3(1,2)
@efly_f3 = 100:wtc 1
:
```

- ユーザー定義関数を作成することで、簡単になる

```
fct @efly(num ^z, num ^w, num ^f)
lcl num ^out(12,2)      !  この場合はローカル変数でOK
if ^w = 0
    ^w == (ref)
end if
^dum == @firABCD(^z, ^w, ^f, 0, 0, ^out)
^efly == ^out(1,2)
end fct ^efly
```

左のようなユーザー定義関数を定義しておけば、
上のAUT用の設定が、下のようになると簡単になる

```
aut
@efly(1,2,2)= 100:wtc 1
@efly(1,2,3)= 100:wtc 1
:
```

ご注意: Ver 10.8(SR1含む)に同梱されているfirabcd.seqマクロを実行すると、一旦@firABCDが削除されるため、左のように、内部で@firABCDを使用している@eflyに影響を与えて、以下のようなエラーが生じることがあります。
A critical error has occurred in option AUT
この場合には、一旦@efly_yを削除(DROコマンド)し、再定義するか、添付のfirABCD.seqをお使いください